

日本の技術を支えた職人を絶やさないたために 金属加工55年、ものづくりの情熱を 次の世代に伝えたい

内村精密技術研究所

内村精密技術研究所(大田区大森西、内村喜信社長、03・3763・9331、<http://kk-uchimura.jp>)は、金属加工業として昭和35年2月に先代の内村喜雄氏が創業し、今年で55年を迎える。

現在は2代目の喜信社長が事業を受継ぎ、多くの製造業がひしめく大田区で大型ステンレス加工、フランジ加工を専門にさまざまな金属加工を手がけており、その永年にわたる経験・ノウハウをベースに数十社におよぶ協力工場とも連携し、多様な材質や形状の金属部品を幅広く取扱っている。特に、NC旋盤では対応しきれない大型鍛造物の加工を得意とし、非常に高い精度が求められるフランジやロケットの部品製造について定評がある。

この高い技術力の評価の証として、平成24年度「大田区ものづくり優秀技能者(大田の工匠



内村喜信社長

100人)に選出された。これは、従業員数3人以下の製造業で活躍する腕利きの職人に焦点を絞って5年間で100人の方を表彰し、その優秀な技能の継承および後継者育成に資することを目的としたものである。

内村社長は、工作機械が発達している中でも人間の手作業でしか対応できない緻密で繊細さが求められる加工は必ず存在するとして、これからの製造業を担う技術者の育成にも力を入れている。

「食事中もいつでも、好きだからずっとものづくりのことを考えています。常に考えて、自分で開発する努力を積み重ねて、何かひとつ達成したときをきっかけにどんな職人にもなれる。日本の製造現場を支えられる技術者を育てたい」と、今後の夢に意欲を見せる。



装置を自社開発するなど、工法や治工具も日々直す